

## 楽しくなり始めた新生活

めてから5か月が経過した。最初はとにかく辛かった。ホームシックに悩まされた毎日だった。ほぼ初対面の人、見知らぬ土地、そしてその中で一人暮らしをする

ない。

しかし、そんな私を助けてくれたのは家族だった。両親や祖母は毎日のように私と電話をしてくれた。また、毎日のように喧嘩をするくらい仲の悪かった双子の姉も、テレビ電話をしながら夕食を共にしてくれた。このことから、私の家族は本当にいい家族だと感じた。

サークルやアルバイトを始めると、その忙しいや友達との楽しい時間の中で日々の生活が充実していき、次第に寂しさも薄れていった。アルバイトを紹介してくれた先輩と一緒にサークルに参加してくれたり、講義を受けてくれる友達には感謝しかない。

後期からは、授業は対面授業となっている。前期は1人でパソコンやスマホの前で講義を受けることが多かったが、後期は友達と一緒に講義を受けることができるので、私が受験の時に想像していたような大学生活に少しずつ戻ってきている。これからも感染対策を徹底しながら、なるべく早くコロナ前の生活に戻りたい。

さらに、後期の選択授業で私はスキーを選んだ。私の地元にはかなり大きなスキー場があり、小中高では毎年スキー授業があったので、大

4年間が過ぎ去ってしまうだろう。この4年間は社会福祉士の国家資格取得を目指すだけでなく、人として身から成長できるように日々精進していきたい。

社会福祉学科1年 菅原鈴詩

大好きな家族や地元と別れを告げ、名

寄で新しい生活を始めていたのかもしれない。さらに私生活も次第に変化し始めた。

さらに私生活も次第に変化し始めた。

さらに私生活も次第に変化し始めた。

さらに私生活も次第に変化し始めた。

さらに私生活も次第に変化し始めた。

さらに私生活も次第に変化し始めた。

